

業務部速報



No. 78

発行 25. 3. 3

JR東労組 業務部

速報

申12号 2025年度賃金引上げ等に関する申し入れ
申13号 2025年度夏季手当に関する申し入れ

第2回交渉継続議論を行う No.2

一乗務員職場の労働実感を訴える！ 現場の奮闘や努力をしっかり受け止めるべきだ！

休日出勤の電話が月イチで必ずかかってきてストレスを感じる／休日出勤を引き受けた挙句に体調を崩している組合員・未加入者が続出している職場は正常と思えない／仕事量が増えている中、職場の年間の休日出勤は2046件で要員足りていない／相互運用は要員需給のためのものでしかないと感じている／以前にも増して業務量は増加し、事故・事象を起こすと責任追及のような聞き取りもあり非常にプレッシャーを感じる／些細なミスで何時間も事情聴取され、再発防止のためではなく、事象をさらすだけの掲示／ベテラン運転士が指導員になれずに車掌や営業職場に異動。教育を行う側が不十分な体制になっている／ジョブローテーション異動によって2時間かけての通勤。委員会・ユニット活動が活発化されて、疲労蓄積、モチベーション低下／睡眠時間が確保できない傾向で、乗務を行う環境は劣悪となり改善を図らなければ事故が増加するのは必然だ／何役も担うが何かミスをすれば責任追及される。特に若手は拒否もできず限界を迎えて退職して人は減るばかりで限界を迎えている

一工務職場の労働実感を訴える！ 鉄道の下支えをしている工務職場の日々の努力に応えるべきだ！

業務量は変わらずに人が減っているため、業務のできる人に業務が振られる傾向が顕著になっている／モニタリングをはじめとするCBMによる管理をしているが、各種検査・調査業務を現場に出て行い、夕方職場に戻ってきからデータを取りまとめ、さらには工事の作業実績整理や修繕計画の作成を行っている／工務職場の社員は10年前と比較して約20%減少／「融合と連携」によってグループでの担務が分からなくなる一方で個人に負担がのしかかっている／メリハリワークという年休の取得や自己の目標設定をさせられたが、超勤が減るところか、新たな波動業務追加でむしろ超勤が増えている／事象があるたび緊急点検の追加が行われるが、現場の実情にあわせてスケジュールを決めることなく、本社の指示でタイトなスケジュールを守っていることは負担増大／点検は限りなくあるので現場は疲弊している／東北地方の職場では、早朝にポイント不転換が4日連続で発生し、復旧要員が確保できず近くに住んでいる社員が全日呼び出し対応に当たってきた／営業費用が増えているというが、限られた修繕費を効率的に使用し、工夫しながら取り組んできた

一医療職場の労働実感を訴える！ 日々の生活にも気を使いながら奮闘している努力を止めるべきだ！

看護師の慢性的な要員不足の中、病棟勤務では夜勤が多く、身体に負担がかかっている。社員の健康や運転適性検査だけでなく、地域医療を支えるために奮闘している／高齢化社会の影響を受けて、外来・入院ともに高齢者患者対応が増えている／JR東日本グループ健康ビジョン2029実現に向けて、認定看護師等による業務内容も多くなるなか取り組んでいる

一かんり・きかく部門・エルダーの労働実感を訴える！ 要員不足の中での奮闘に応えるべきだ！

指令職場では、3ヵ月程度現場からくるとインターンがいないと要員が回らない／企画業務に時間を取られ、指令員としての知識向上に向けた勉強の時間もつけない／指令員も融合と連携で駅や乗務員との兼務など一人で二役三役を担っている／各職場の事務を集約して一つの職場になったが、誤支給が発生。教育、研修体制も整わず、管理者も事務経験がない中でOJTを行っても技能の向上が図れない中で、一つひとつ原因究明しながら苦労して施策を担ってきた／融合と連携が進み、複数個所勤務が増えている中、他箇所との勤務整理で勤務発表が25日ギリギリまで出ない職場もあり、社員からどうなっているのだと責められることもある／エルダーだが、東北新幹線の車両故障の対応では10時間休憩も取れずに対応。給料が3分の1になっても現役と同じ業務を担っている。働き度に見合った賃金が欲しい。

主な会社回答

努力に感謝を申し述べる／努力が持続的成長に繋がり、社員還元につながるように取り組んでいく／意見を会社として受け止めながら慎重に判断したい

全系統とも要員不足の中で過去最高の働き度であることを受け止めて、満額回答で応えるべきだ！